

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3270300134
法人名	社会福祉法人 真心会
事業所名	グループホームるんぴにい苑
所在地 (電話番号)	出雲市園町2606-1 (電話) 0853-67-0810

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年2月6日

【情報提供票より】(20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	4.7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋建て	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,480 円			

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	出雲市立総合医療センター
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは里山を整備した丘の上に位置し、眼下に湖と田園地帯が見渡せ、四季を味わうことができる。法人設立当初より、地域密着を理念とした事業展開がなされており、地域との連携は非常に強く、共同での防災避難訓練の実施や、各種イベントの開催といったことは高く評価できる。
管理者をはじめとする職員は、常に利用者一人ひとりがどのように生きることが良いかということを考えながらケアにあたっており、利用者を第一に考えた関わりが見て取れ、認知症のケアに対する熱意と情熱が感じることができた。
職員の声掛けや対応は、あくまで利用者のペースに合わせたさりげない穏やかなものであり、利用者や職員の笑顔からも事業所のケアの質の高さが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価での改善課題はないが、運営者、管理者、職員ともに、評価の意義を充分理解し、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上と、更に良いケア提供に向け積極的に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	理念に基づく運営を行う、或は理念を具現化するために、評価項目を職員全員が理解し、点検する課程と、その目的を共有化することにより、より高い質の確保に向けて、継続的、積極的な取り組みが展開されている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、運営状況、サービス提供状況等報告している。またこの会議を、次の行動目標の設定となる場として活用し、ホームのサービスの質向上の糧として開催する一方、より地域との連携を図るものとしても捉え取り組んでおり、会議の内容は会議メンバー以外の家族等にも周知されている。また、法人の他事業所と協同して、市役所をはじめ地域の包括支援センター、他事業所等への情報提供等もなされ、連携が図られている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の状況は、家族の面会の都度報告がなされている。また季刊でホーム便りを発行し、行事等のホームの活動状況を知らせており、その際に各利用者ごとの活動写真も添えられている。家族の面会時には無理なく意見や要望を言える声掛けがなされ、また年に2回家族を招聘し食事が催され、その後家族会を開催しその際出された意見は会議で話し合いがなされるなど、ホームの事業展開へ反映するような仕組みが構築されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人設立当初より、地域との連携を重点施策として事業展開がなされてきた経緯もあり、地元の小中学校等との付き合いは深い。ホームへの訪問にとどまらず、小中学校の文化祭や学習発表会に参加するなど、積極的な取り組みがなされている。今後も、利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らしつつけられるよう、また、事業所が地域の中の一員として、地域活動や住民との関わりを持つことが求められることから、運営推進会議や関連する事業所等と協同して、事業所自体が地域で必要とされる活動や役割を、より積極的に担っていく取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づきホーム独自の5つの理念を掲げ、内容にも地域との連携も含まれており、平易な言葉でわかり易い。法人の他事業所と連携しての理念の具現化に向けた取り組みも、“地域と共に…”ということを重要視した内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームで提供する各サービス場面ごとに、利用者を第一に考えた支援とはどうあるべきかをミーティング等で話し合いがなされ、その内容はあくまでホームの理念に基づいたケア提供を目指そうとするものである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人設立当初より、地域との連携を重点施策として事業展開がなされてきた経緯もあり、地域の小中学校等との付き合いは深い。ホームに訪問してもらうだけでなく、小中学校の文化祭や学習発表会に参加するなど、積極的な取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価での課題はないが、全職員が評価の意義を充分理解し、自己評価は全職員ですり合わせがなされ、外部評価に関しては、その内容について何度も話し合いがなされるなど、評価を通して、より一層の質の向上と、更に良いケア提供に向けての積極的な取り組みが見て取れる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、運営状況、サービス提供状況等報告している。またこの会議を、次の行動目標の設定となる場として活用し、ホームのサービスの質向上の糧として開催する一方、より地域との連携を図るものとしても捉え取り組んでおり、会議の内容は会議メンバー以外の家族等にも周知されている。		

島根県 グループホームるんびにい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の居宅介護支援事業所をはじめとし、関係する他事業所と協同して、市役所や地域の包括支援センター等への情報提供等もなされ、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況は、家族の面会の都度報告がなされ、記録や金銭出納簿については同意の署名・捺印がある。また季刊でホーム便りを発行し、行事等のホームの活動状況を知らせており、その際に各利用者ごとの活動写真も添えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置され、第三者委員も選任がなされ委員会も設置されている。家族の面会時には無理なく意見や要望を言える声掛けがなされ、また年に2回家族を招聘し食事会が催され、その後家族会を開催しその際出された意見は会議で話し合いがなされ、ホームの事業展開へ反映するような仕組みが構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	周囲の人を和ませるような雰囲気を持った職員といった認知症高齢者のケアに適した職員が配置されており、加えて、管理者も職員の異動等が利用者へダメージを与えることを十分に理解しており、他事業所への異動等は極力避ける配慮がなされている。またこの1年、職員の異動と退職はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で職員育成研修委員会を設置し、月1回内部研修を開催し、外部研修にも多く参加し、職員の育成に努めている。加えて圏域の事業所間で、合同の研修会を開催しており、職員個々のスキルアップへ向けての意識は高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、主催される勉強会等に参加、ネットワーク作りを行っている。また圏域のグループホームと1年に何度か行事の際の相互交流なども行っており、今後職員交流も予定されている。		

島根県 グループホームるんびにい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅に行き、馴染みの関係を作ってから入居してもらおう、また入居前の見学や体験利用を行ったり、家族とも相談し協力を得、入居当初は外泊を増やしたり、家族に宿泊をしてもらったりし、利用者が安心してホームでの生活に馴染んでもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者と共に何でも行うよう心掛け、日々の生活の中で、利用者を尊重するように全職員が意識統一を図り、利用者主体のゆっくりとした時間の中で、穏やかに暖かい生活が送れるよう、ケア提供がなされており、職員のヒアリングからもそのことが窺えた。調査日にも利用者と職員との良好な関係を見ることができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努めている。本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者主体”に主眼を置き、家族から意見を聞くなどし、加えて、日々の生活の中から本人の希望や意向を導き出すよう努め、決して職員の一方的判断とならないよう注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向を第一に考え、必要に応じて家族や関係者とも意見交換や検討を行い、“望む生活”“あるべき人生”を実現するための課題を抽出し、介護計画が策定されている。担当者会議や、カンファレンス、モニタリングもきちんとなされており、家族への説明もなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の期間終了時(3ヶ月ごと)に加えて、状態が変化した時など、必要時には都度ケアカンファレンス実施し、課題ごとに検討・協議がなされており、月1回のモニタリングやスタッフ会議を通して介護計画の見直し、策定を行っている。		

島根県 グループホームるんびにい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族等の状況に応じ、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医をかかりつけ医とすることを基本とし、利用者本人・家族の状況に応じ、かかりつけ医の受診にも対応している。加えて、利用者本人及び家族に確認・同意を得た上で、利用する協力医療機関を確保しており、医療機関と常時連絡が取れるような体制が取られ、家族との連携も密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、かかりつけ医等と連携を図り、十分な話し合いの上で方針の共有を図り、対応する体制が取られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに関する接遇面を、ケア提供にあたっての第一の課題として捉え、都度職員間で話し合いがなされ、業務中においても、職員同士で注意し合える環境を作るなど、全職員での対応が図られている。加えて、個人情報に関しては十分に配慮した上での取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の着衣や髪型(色)等は、個々の好みに応じた個性的なものであり、利用者のペースに合わせた、利用者主体のケアが見て取れ、職員のヒアリングからも、職員の都合にではなく、利用者一人ひとりの意向を捉えた上でのケア提供、柔軟な対応が窺えた。		

島根県 グループホームるんぴにい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と共に、下ごしらえ、盛り付け、配膳、或いは後片付け等、それぞれが自分ができる範囲で進んで、楽しそうに行っていた。食事も職員は利用者と同テーブルにつき、世間話などをしながらの和やかな食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に沿った支援がなされている。現在希望がないので夜間浴は実施していないが、対応可能な体制は取られている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個人因子を捉え、利用者の得意なことを実現できる場、役割を果たせる場をつくり、“あるべき人生”の実現に向けての取り組みは高く評価できる。また、日々の積極的な外出を始めとし、楽しみごと、気晴らしの支援も積極的になされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブでの外出実施や週3回の食事の食材の買い物、また、日常的な外出も、利用者の希望に合わせて柔軟な対応がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由により施錠されているものの、日中は施錠されることなく全戸が開放され、利用者、家族、来訪者ともに自由に出入りすることができる。当日も、利用者をはじめ、家族など、自由に出入りする場面が見られた。外出傾向者も把握し、安全面での配慮もなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人として毎月避難訓練があり、グループホームからの出火を想定した訓練も実施している。また年に2回は、地域住民の協力も得ての避難訓練も実施している。加えて、非常時には関連施設の協力が得られる体制整備がなされている。		

島根県 グループホームるんびにい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は法人の管理栄養士が行い、食事水分摂取量は個別にチェックし把握されている。 食事形態も、利用者それぞれの状況に合わせ柔軟な対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木が多く使われ、天井の梁の持つ雰囲気も合わせ落ち着ける感じである。各所にテーブルやソファ、座って利用できる炬燵も置かれ家庭的な雰囲気である。 利用者手作りの壁飾りも季節感があり、穏やかな雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で、ダンスやテレビ、椅子やテーブル等が持ち込まれており、個性的な居室づくりがなされており、利用者自身の趣味的活動を活かした品も多く、生活感を感じさせる思い思いの空間が作られている。		